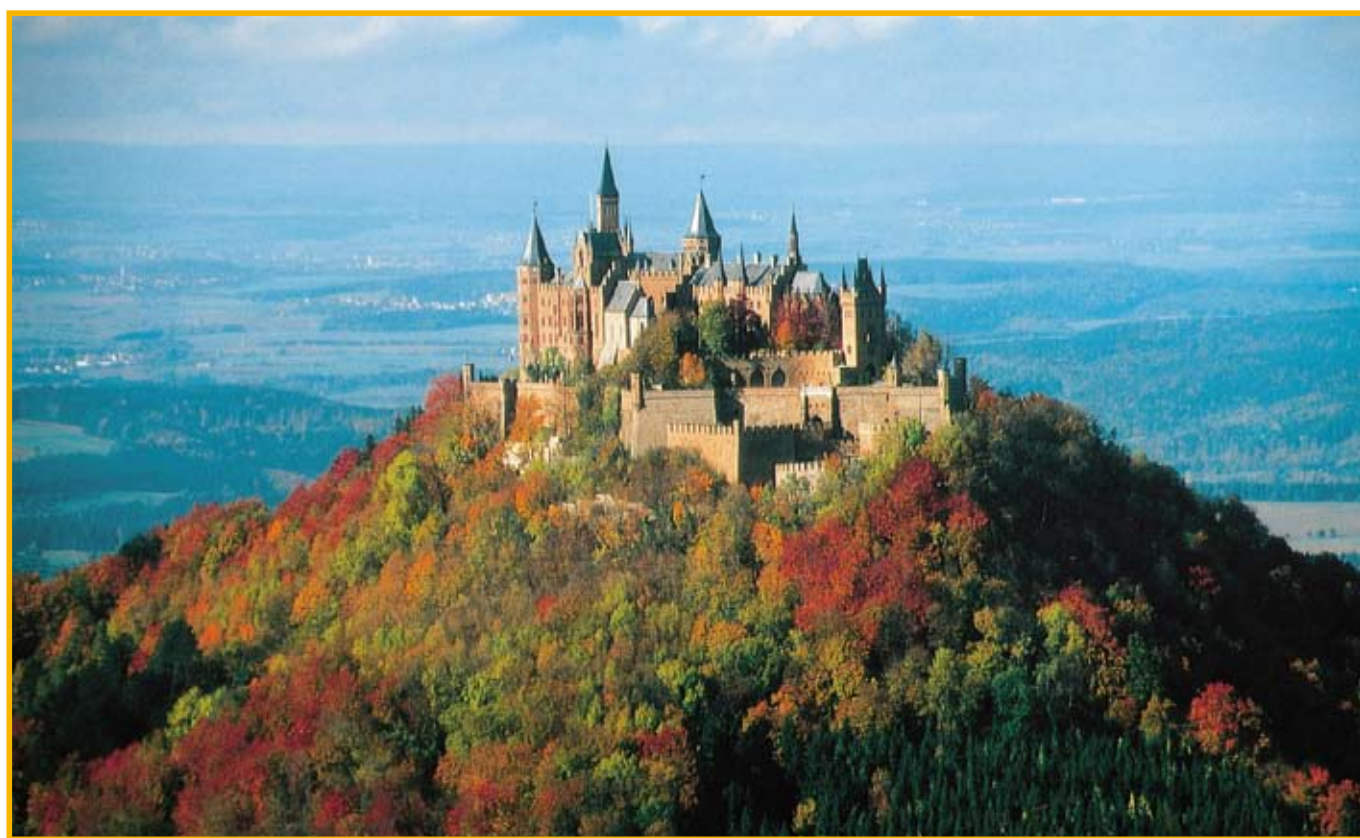


GUTENTAG

発行 **仙台日独協会** 企画・編集 **仙台日独協会文化センター**

仙台市青葉区大町2-3-10 目黒ビル3F TEL・FAX 022-262-7430 <http://sendai-deutschland.cocolog-nifty.com/blog/>



ホーエンツォレルン城

ごあいさつ

昨年5月、大和田泰夫前会長の御退任の後を継いで、仙台日独協会会長に就任いたしました。仙台日独協会の歴代会長は、氏家栄一氏、木下藤次郎氏、そして大和田前会長と、いずれも、仙台の経済界を代表する方々で、私のような世間知らずにこつこつとした協会の会長が務まるのかどうか、甚だ心許無いものがありますが、役員の方々を始めとする皆様の御協力を得て、何とか務めを果たしてまいりたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。



仙台日独協会会長
藤田 宙靖

私は、昭和41年の秋に東北大学に赴任して以来、36年間に亘り助教授・教授として法学部に奉職しておりましたが、平成14年、最高裁に招聘されて東京に移り、70歳の定年退官に伴って、平成22年にふたたび仙台に戻って参りました。その間の、文化センターの活動を中心とする仙台日独協会の隆盛ぶりには目を見張るものがあります。昨年は創立30周年を迎えるところとなりましたが、今では全国有数の、最も活気ある日独協会の一つとして世に知られるまでに成長しましたことを、創立に関わりました者の一人として、大変嬉しく思いますと共に、関係の皆様御熱意・御努力に、心から感謝いたしております。

創立30周年を記念する事業として、公募により計5人の若者を、Goethe Institutの1か月の語学研修に参加すべく、ドイツに派遣する企画をし、本誌に後掲の被派遣者の報告のように、大きな成果をあげました。日独両文化の間に古くから深い縁のあることは、周知の通りですが、先方より得るだけではなくこちらからも発信する機会を作るという意味でも、こういった若者の間での交流は、今後とも是非促進して行くべきであると思っております。

仙台日独協会この1年

仙台日独協会が実施した事業の一部をご紹介します。

仙台日独協会事務局

5月25日
第25回定期総会

場所 東北学院大学サテライトステーション

平成24年度の事業報告収支決算、ならびに25年度の事業計画(案)、収支予算(案)および役員改選について審議しすべての議案について承認が得られました。
また総会後は同会場において懇親会の時間をもちました。



5月31日

仙台国際音楽コンクール出場者によるヴァイオリンコンサート

場所 ローマンアウラホール

(佐藤裕也眼科4階)



音楽の都として定着した仙台には世界中から才能あふれる若手音楽家が集まります。
仙台日独協会では、今回の出場者のひとり上敷領藍子さんのヴァイオリンコンサートをピアノ伴奏に可沼美沙さんをお迎えしました。
演奏の後はバラエティに富んだお料理とドイツワインが並び会場は音楽会ならではの優雅な雰囲気になりました。

6月8日

全国日独協会総会

場所 札幌

6月14日〜26日

わたしのドイツ

場所 東北工業大学一番町ロビー

ドイツ大使館では2007年より日本の小中学生を対象に毎年絵画コンテスト「わたしのドイツ」を実施しています。
2012年は「わたしのまわりのドイツ」をテーマに全国から三七二点の応募がありました。



仙台日独協会(主催)ではドイツ大使館から宮城県の小中

学生の作品を借用し約二週間にわたり展示しました。
子供達の作品を通し、より多くの方にドイツへの関心を深めていただくたく実施しています。

は心配された前日からの雨も止み、さわやかな風にふかれ、しばし頂上からの展望を楽しみました。
下山後は残った8名による料理自慢の皿がいくつも並び、借りたコテージのテラスは笑い声とともに大いに盛り上がりました。

7月28日
第1回野山歩きの会

場所 やくらい山

会員の佐藤雄一さんをアドバイザーに参加者一六名。そのうち八名がやくらい山登山にいとみしました。やくらい山山頂から



また、会員同士の親睦も深まり自然の中で身も心もリフレッシュできた楽しい一日となりました。

9月13日
ドイツ大使講演

場所 東北福祉大学

講演者 フォルカー・シュタンツェルドイツ大使

シュタンツェルドイツ大使は2009年12月に着任後



日本語で講演されました。

9月13日〜23日

仙台オクトーバーフェスト

場所 錦町公園



12月7日

クリスマス会

場所 レストランパリンカ

冬のお楽しみはなんといってもクリスマス。
今回は御霊屋下にあるすきなレストランパリンカを貸し切り開催されました。おいしいお料理とドイツワインを手に久しぶりの

お顔もあり会員同士お話しが弾みました。
当日は協会会員の大田麻子さんによる素敵なクリスマスの歌と愉快な人形劇も披露され、会場は外の寒さとはうらはらに朗らかな笑い声に心から暖まるひと時となりました。



日独抄



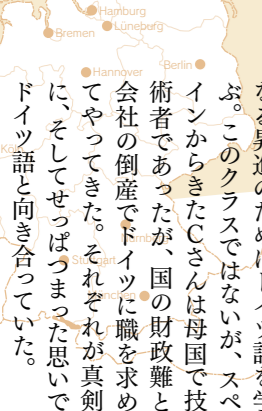
東日本大震災とドイツ

外務省領事局長(前仙台入国管理局長、元在ドイツ日本大使館公使) 三好 真理

3年半勤務したベルリンを離れ、仙台に赴任したのは、東日本大震災から1年が経った2012年4月のことでした。
二度(最初は2000〜2002年)の在ドイツ日本大使館勤務で、良い意味でも悪い意味でもいささかゲルマン化(?)していた私は、無性に和の世界が恋しくなり、仙台に着くや和食に、茶道に、祭りに、温泉にと杜の都の生活を満喫させていただきました。その一方で、震災からの復興という課題は、片時も私の頭から離れたことはありませんでした。
2011年3月11日金曜日に、マグニチュード9.0というこれまでにない大地震とそれに続く津波が東北地方を襲ったからというものの、ベルリンにある日本大

使館には電話での照会や寄付の申し入れが殺到し、大使館正門前の一角は一挙に花束やろうそくで埋め尽くされました。
翌週には、ヴルフ大統領(当時)やメルケル首相が相次いでお見舞いのために大使公邸を訪れ、メルケル首相からはご主人(フンボルト大学教授のザウアー氏)が二度ほど学会出席のため杜の都を訪れ、感銘を受けていた旨の発言がありました。
ドイツ緊急援助隊の早めの帰国や大使館の関西への移転等もありましたが、全ドイツ市民の善意を感じました。「震災遺児をドイツに引き取りたい」「漁師の皆さんに何かしてあげたい」「津波で流された土壌を取り戻してあげたい」、そういった声も届きました。ドイツのメディアでは

連日日本について報道され、注目を集めるきっかけが震災でなければどほど良かったかと感じました。また、日本滞在中に大震災を経験した若いドイツ人から、日本人がいかに冷静に対処し、周囲に配慮していたかについて話を伺ったのも印象的でした。
折から日独交流150周年の行事がチャリティー行事に変わり、私自身も仙台赴任後、アジアツアー中のベルリンフィルのメンバーが仙台フィルのメンバーと共演したコンサートに伺う機会に恵まれました。今後ドイツとの絆が深まり、「雨天の友は真の友」であってほしいと、心から願ってやみません。



ドイツ語と向き合っていた。

ロシアからきたNさんは、1980年代生まれ。父親が国営の兵器工場に勤めていたが、ソ連の崩壊で給料が下がり、同僚が次々と職場を離れていった。国営の工場や会社は二束三文の価格で次々と民営会社に買収されていった。東西冷戦から一気にもつ連崩壊→東西ドイツ統一という時代に幼少期を過ごした。その影響からか、安定した職に就くためにドイツの製菓会社に就職した。そして、さらなる昇進のためにドイツ語を学ぶ。このクラスではないが、スペインからきたCさんは母国で技術者であったが、国の財政難と会社の倒産でドイツに職を求めてやってきた。それぞれが真剣に、そしてせっせとつまった思いで

ボンでの貴重な体験

大和田 順子

私は、昨年の3月に仙台日独協会設立三十周年記念事業のドイツ語研修者選ばれましたが、ドイツ語からしばらく遠ざかっていることや、留学の経験もない上に、老眼鏡の世話に頼らなければならない年になつていられることもあり体力的に1か月持ちこたえられないのだからか等、内心はいくつも不安材料を抱えていました。ユーロ紙幣を使うのも初めてというほど外国旅行からも遠ざかっていたのです。

仙台を出発したのは夏の面影がまだ残っていた9月26日でした。研修地のボンは、すでに木々も色づいた秋の盛りで、日本より1か月先のような感じでした。ボンはライン河畔の古都で旧西ドイツの首都の人口約三十万のこじんまりとした落ち着いた街です。宿泊したのは、ボンの郊外のデュイ



ライン川

1ヶ月間のドイツ研修を終えて



自室

スドルフにある学生寮でした。シャワー、キッチン、冷蔵庫等が付いた思いのほかに広い部屋で、生活にはほとんど不自由はありませんでした。また、寮の近くに夜10時までやっているスーパーがあり、買い物にも困りませんでした。昼食はボン大学のメンザが近くにあったことからよく利用していました。値段の割にボリュームがあつたので残してしまうことも多かつたです。週末は、ボンの市内めぐりや日帰りでライン川観光、トリアー、アーヘンなどに出かけました。特に印象に残ったのが、ボンにあるHaus der Geschichteという博物館です。1945年の終戦からドイツ再統一に至るまでのドキュメントや当時のオリジナル資料、生活物資、録音資料など一日では見ることのできないほどのものが展示されていきました。しかも入場無料ということでボンに滞在している間に2回見ることができました。また、滔々と流れる国際河川のライン川のほとりにも何回か散歩に出かけました。

と、書くことつまり、ドイツ語によって自分の考えを相手に理解してもらい、同時に相手の言い分を聞きとるといふこれまで自分不足に不足していた分野の練習が中心でした。身近なことを中心に小グループでの討論、口頭あるいは文章での発表が主な内容です。私のグループはモンゴル、スペイン、ルワンダからの受講生で4人の共通語は常にドイツ語です。お互いに思ったように表現できずにもどかしい思いをしながらも何とかやっていきました。12か国15人の私のクラスの参加者は、ドイツ語に関してほぼ同レベルであることから早々にお互いになりなりました。それを話すようになりなりました。それぞれの母国語が異なる人たちと4週間といふ毎日内容の濃いに学ぶという毎日内容は一緒に専念できる毎日、遠い昔の学生時代に戻つたような感じでした。最後の授業は、博物館での展示を見ながら各国の「食」をテーマに各自が解説するという印象に残るものでした。

と、書くことつまり、ドイツ語によって自分の考えを相手に理解してもらい、同時に相手の言い分を聞きとるといふこれまで自分不足に不足していた分野の練習が中心でした。身近なことを中心に小グループでの討論、口頭あるいは文章での発表が主な内容です。私のグループはモンゴル、スペイン、ルワンダからの受講生で4人の共通語は常にドイツ語です。お互いに思ったように表現できずにもどかしい思いをしながらも何とかやっていきました。12か国15人の私のクラスの参加者は、ドイツ語に関してほぼ同レベルであることから早々にお互いになりなりました。それを話すようになりなりました。それぞれの母国語が異なる人たちと4週間といふ毎日内容の濃いに学ぶという毎日内容は一緒に専念できる毎日、遠い昔の学生時代に戻つたような感じでした。最後の授業は、博物館での展示を見ながら各国の「食」をテーマに各自が解説するという印象に残るものでした。



ボン大学

ボンで学んで

小笠原 真紀



自宅の窓から

学生寮の窓からは、色づいた木々が木枯らしに吹かれて枯葉を散らしているの見える。教会の鐘の音に促されるように、まだ夜が明け前の暗闇の中を車の列が町の中心へと向かう。ボンの近郊で早朝に見られる風景だ。学生たちの波に揉まれるように私たちがバスに乗り込む。



たくさんのイモイモ

酸味の強いライ麦パンと穴あいたチーズの簡単な朝食を済ませ、久しぶりにジーンズをはき、バックパックに分厚い教科書を詰めて寮を出る。教室には15人の生徒。母国には職がなく専門的な技術を学びなおすため、進学のため、家族のためにドイツ語を学ぶ、そんな人々と共に毎日ドイツ語に励んだ。

午前中の授業だけでも集中力が要り宿題も大変ななか、リビアから来たAさんは夜にも授業を受けていた。Aさんは大学で経済学を学ぶためこの語学学校に通っている。「帰宅したらクタクタでベッドに直行よ」と笑うが、テストの結果が自分では満足しないという教室の隅で涙を流していた。

こうした流れのなか、ドイツは2005年より外国人のドイツ語習得について定めた新たな法律を施行し、インテグレーション(統合)を政策の一つに掲げている。労働力が不足するこの国で仕事に就いてもらい、安定した生活基盤を立ててもらおうというのがドイツの国益にかなうというわけだ。ドイツが今おさず私たちが日本がこれから東アジアにおいて直面するかもしれない現実性を秘めている。日本人としてこの状況とドイツの対応を実際に経験し、日本に帰って何かの機会に日本の皆さんに伝えたいという思いが、滞在中に沸々とわいた。

10月3日のドイツ再統一の日。一緒に日本から来た大和田さんとドイツ国立歴史博物館

を訪れた。ここは1945年以降、つまり戦後のドイツの歩みを本物の展示物を見ながら学ぶことができる。

街は統一の日であるというのに、普段の休日と変わらない様子で拍子ぬけするほど静かだった。やや物足りなさを感じながら博物館に入ると、そこには、学校の宿題であろうか、レポート用紙を手にした生徒たちであふれていた。そして、彼らは真剣にメモをとっていた。ドイツ統一をリアルタイムで体験してない子供たちだ。

東西を分けていた有刺鉄線の展示、それを命がけて飛び越える東側の人々の写真、「西側への旅行が自由化された(国境が開かれた)」という政府の発表の第一声の音声：そうしたものが次々と目に、耳に飛び込んでくる。子供達も含め、騒ぐ者はなく懸命に歴史を追体験している様子だった。

あれから20年あまり。東西ドイツ統一どころか、今やヨーロッパは一つになった。

統一の通貨になり、各国の財政がつまびらかになった。格差も問題となっていない。そのなかで少しでも暮らしをよくしようとしてドイツに何かを求め、懸命にその土地に順応して生き抜く人々と出会えた。ドイツ語を共



ボンのマルクト広場

ドイツへ、再会と新たな出会いに心躍る、そしてPROSIT!(乾杯!)

河江 有利絵

11月ドイツ・ボン朝方の景色は真つ暗で静寂。「ゴーン、ゴーン」と毎時6時15分に教会の鐘の音が全身をツーンと冷たく

通語として、その思いを聞き出すこともできた。日本ではなかなか経験できないことである。これからドイツ語を学ぶ時にはそうした人々の姿が脳裏によみがえることであろう。

短期間の観光で体験できるもの、長期の留学でじっくり学ぶもの。それぞれに素晴らしい。私はその中間の1か月。その日に見たもの聞いたことを宿舎に戻ってじっくり考え、そしてもういちど確かめにその場所に立ち戻る毎日だった。そのすべてがこれから生涯にわたり糧となると感じている。仙台日独協会に少しでも還元できるようにこれからも研鑽を積んでいきたい。最後に、このような貴重な経験をさせていただいた仙台日独協会の皆様に感謝申し上げます。

1つ目の最高の出会い。それは、偶然カフェでのドイツ人との出会いです。私がボンに着いた時、現地に知り合いが誰もいない事にはつと気づきました。さて、どうしようかなと考えながら、カフェに入ると、そこに日本語の書かれたノートもっているドイツ人を見つけました。「[Enschuldigung! Ist das ja Japanisch? Lernen Sie Japanese? Ich bin Japanerin. Ich möchte dich kennenlernen] (すみません、それは日本語ですか? 私は日本人です。私はあなたと知り合いたいのですが。)」と話しかけ、私は初めてのボンでできた友人と



ボンでできた友人と

Hamburg
Bremen
Lüneburg
Berlin
Hannover
ドイツ語文化研修に参加させていただくにあたり、大きく

1ヶ月のドイツ滞在を終えて

八木美華

のチケットをインターネットで購入してゲートで出会った友達と見に行きました。その時2位だったバイヤー・レバークーゼン対アイントラハト・フランクフルトの試合です。カレー味ソーセージCurrywurst mit Pommes Fritesとビールを飲みながら実際に見る試合は格別でした。応援の熱もすごかったです。

私は現在、合唱指導者として複数の合唱団と共に仙台市内で音楽活動を行っています。主催コンサートの他、各市民センター主催の地域行事での演奏、デパートや訪問演奏、在仙外国人と共に歌う合唱国際交流、海外合唱団の仙台公演招聘と地域合唱団共演の企画運営等を実施。合唱を通じて、地域に根差し、世代、性別、人種を越え、皆で音楽の喜びを共有することを第一義に活動しています。



クリスマスマーケット

ツの大学生と話す事は、今の同世代の外国人の人はどんな考えをもち、生活をどうしているのかを知れるとても良い機会になりました。2つ目の最高の出会い。ドイツに留学中の日本の大学生との出会いです。その学生ともカフェで偶然出会いました。異国の同年代の人と話す事も良い機会でしたが、同じ日本人として異国の地で何を思うかを話す事も良い機会になりました。ドイツにいたからこそこそ見えてくる、日本の良さ・悪さ。これらと同じ日本人として共有し合うことにより、今度どんな日本にしていきたいか、私たちに何ができるか等、未来の日本話しをする事が出来ました。夜通し、ドイツワインとカマンベールチーズを食べながら話したことは良い思い出です。異国の地にいると、今まで当たり前だと思っていた自分の中の概念が崩れることが多いです。その時に、母国語を共有できる友がいて、話を共有できるという環境はとても素敵で、最高でした。

3つ目の最高の再会。高校留学時代のオーストリアの友人に4年ぶりに会う機会がありました。久しぶりの再会でしたので、会ってくれるか心配でしたが、沢山の友人が私のもとに駆け

ドイツでの二カ月を振り返って

根本 貴文

つけてくれました。今だからこそ言える「実はあの時●●だった」という話。最高でした。私が日本に帰るとき、飛行機で民族衣装を来て帰るという約束を果たした事を話すと、友人は「え？ゆりえ、本当にしたの？あはは冗談だったのだよ」という4年越しの真実も明かされました。国境を超えて、再び友人に会い、変わらない関係でまた語り合う。この時、私の胸はアツクなりました。見知らぬ地ドイツのボンに住み、沢山の人間に出会い、思い出を作り、その地が、見知らぬ地から懐かしい地になる。現在日本にいても、ドイツの地のニュースが流れると、耳をたてて友人の住む地で何が起きたのだろうと興味を示す。この先に、国と国の本当の相互理解があるのかなあと思いました。再会と新たな出会いに、PROFIT! (乾杯!) どうもありがとうございました。

この度はドイツで一カ月ドイツ語を勉強させていただく機会をいただき本当にありがとうございました。日本語から離れたドイツ語漬けになる生活は大変刺激的で一生忘れられないものになりました。また、世界中様々な国からやってきた学生と学ぶことで新しい視点が得られたと

二つの目標を掲げていました。一つは、合唱指導者の素養としてドイツ語を習得しつつ、ドイツの文化や生活習慣を体験すること、もう一つは、ドイツ滞在中を生かし、地域での音楽、特に合唱の存在意義、その指導方法を知ることです。

ゲート・インスティテュートの研修

1月6日(月)コース初日にクラス分けの試験があり、翌日から授業がスタートしました。クラスメイトの出身地は、アルゼンチン、イギリス、インド、セルビア、トルコ、ブルガリア、メキシコ、モンゴル、リビア。沢山の国の人々と交流が持てたことも大きな収穫です。授業は大変計画的で、毎日の宿題はもちろん、毎週試験があり密度の濃い内容でした。



クラスの友人達

またゲートでは文化体験プログラムもあり、ボンや近郊都市の歴史や街並みの見学、学生同士の交流会等体験しました。中期のボンを迎えるナイトツアーは、寒さに耐えるのが精一杯で残念ながらほぼ記憶がありません。ドイツ料理教室が特に楽しくおいしい企画でした。

生活文化体験

思いがけない生活体験として

授業で一番印象的だったのは、私が抽象的な単語や文法に知識が偏っていた日常生に密着した基本的単語や会話能力に欠けていたということ。ドイツ語に近いフラマン語を話すベルギー人はほとんどドイツ語を勉強したことがないのに、かなり聞いて理解することができていました。また、すでに1年近く住んでいるアラブ人は会話がかなりできるのに、私にとって当り前な基本的文法ができていません。このような現状を見て会話の練習こそがここに来た目的だと再確認しました。



14名クラスの授業の様子

ゲート・インスティテュートの授業は朝8時に始まり、13時に終了しました。昼ごはんは13時の授業終了後に学生食堂へ行きました。そこでは2〜5ユーロくらいでお腹いっぱい食べることが出来ます。平日の夕方は毎日ゲートが企画したイベントが用意されていました。私は積極的にこれに参加しました。バーでの飲み会やボン市内観光、オーケストラのコンサートなど様々でした。

授業は全てドイツ語で行われました。課題を得て隣の人と話す練習をしたり、CDを聞いて聞きとりの練習をしたりしました。私の隣に座っていた人は

心に刻まれた出来事の一つに、到着日の電車移動があります。フランクフルト空港からケルンへの移動では、駅構内で掲示されていた車両番号とは正反対の車両が到着。乗客皆でホームの端から端まで必死に走りまわりました。ケルンからボンへの乗り換えでは、その経験を生かし到着番線の真ん中に陣取りました。15分遅れた挙句、到着直前にホームが変わり、結局スーツケースを抱えて走ることに。軽いパニックで、階段を使ってしまいい、腰が抜けるかと思いましたが、しかし、昔別の国で、乗った電車が途中で切り離され、違う都市に着いたことを考えると、無事ボンに着いたのでよしです。ケルン駅では、明らかに外国人で旅行者風の私に、電車の行き先などを訪ねてくる人が複数いて、ある意味勇気があると感じました。普段で近くになつた方たちが、ドイツ語で普通に話しかけてきて、大らかに開かれた印象を持ちました。

滞在最終日には、2年前ハンガリーの合唱指揮マスタークラスでお世話になったドイツ人の先生のご自宅を訪ねました。ケルンに近い小さな村に



ゲート・インスティテュートの入口



満月の下でのクリスマスマーケット。毎晩たくさんの人でこた返っていました

チャドから来た学生でいつも2人で言う課題は彼とでした。彼は英語が話せないで互いの意思疎通はドイツ語でしかできなかった。非常に良い練習になったと思います。授業が終わるとお腹がぺこぺこになった私達は「Mensai Mensai」と言ってベルギー人やスウェーデン人、シリア人など様々な国籍の友人たちと学生食堂に行きました。彼らと異文化交流をしながらの昼食は大変興味深く忘れられないものになりました。

宿題は毎日出ました。Eメールを書く練習や文法問題などが課されました。私は仲良くなつたベルギー人とよく一緒に部屋に集まって宿題をしました。彼は日本のことをほとんど知らなかったため、その度に色々なことを教えました。日本と中国の違いが全くわかっていない彼の現状に驚きました。しかし、この経験もまた興味深かったです。ドイツには語学学習においてタンデムという面白い仕組みが広く行われています。私は入れ替わりでドイツ留学を終えた河江さんに日本語を学んでいるドイツ人の学生を紹介してもら

40年程住んでいるとのこと。驚く程静かなところで、都市部とは全く違う、自然と共存する生活を垣間見ることができました。

音楽体験など

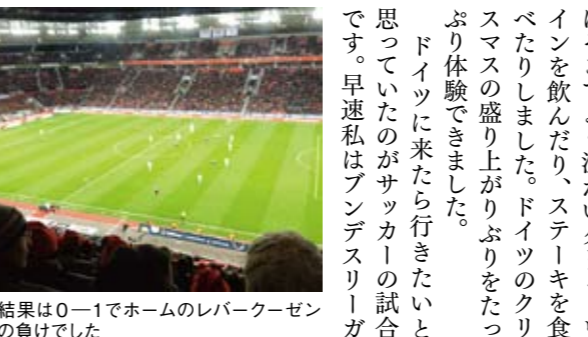
前述の指揮の先生のお力添えで、地元合唱団への訪問が実現しました。Philharmonischer Chor der Stadt Bonn が私を受け入れてくださり、初回は指導の見学、その後、歌い手として参加。団の歴史は1852年までさかのぼることができ、現在120名を超える団員が所属する大きくて音に厚みと丸みのある団でした。マタイ受難曲(バッハ)、神の国(エルガー)という大作に取り組んでいましたが、多くの方が何度も演奏した経験があるとのこと。一方1月入団の方も複数いて、個々で見ると技量に差があり、新人へのフォローを興味深く拝見。休憩や帰り道、団員目録での合唱の存在意義も少し伺いました。

ある週末にはベルリンに赴き、ベルリンフィルハーモニーオーケストラを聴きました。コンサート当日は、おしゃれな紳士淑女はもとより、普段着の若い人たちが家族連れもいて、音楽を通じて友人や家族と共に過ごす楽しいひと時という印象。演奏は本当に素晴らしく、見知らぬ言語で語りかけられているような感覚を覚え、感涙しました。

ベルリンではまた、到着早々

夜のポツダム広場で道に迷い、

いました。活動内容はカフェで日本語やドイツ語を話すだけです。ボンで他言語を学んでいる人は皆タンデムパートナーが複数いて定期的に会話の練習をしていました。また、タンデムパートナーから人脈を広げることが出来ます。アジアに興味のあるボンの学生が集まるアジアパーティーに招待してもらったり、日本語を学ぶボン大学の学生達と宅飲みをしたりしました。彼らは日本人タンデムパートナーから教えてもらったギャグや変な言葉の色々知っていて笑われました。



結果は0-1でホームのレバークーゼンの負けでした



ベルリンフィルのポスター

ヨチヨチドイツ語で道を尋ねるなど、音楽以外の経験も...。ベルリン大聖堂や博物館のほか、壁博物館チェックポイント・チャーリー跡地、また現地在住の友人に連れられ、カイザー・ヴィルヘルム記念教会を遠目に見ながら、Questi...各強制限所へつながらる線路が残されている地を訪ねました。数年前ポーランドのアウシュビッツ強制収容所を訪ねたことがあり、線路の両端に立ったと思うと胸が苦しくなりました。

最後に 1ヶ月の研修を通じて、ドイツ語を学び、上達する喜びを実感。あわせて、日本とドイツとの文化・雰囲気の違いももちろん、共通点を垣間見ることができました。歴史的建造物や街並みに心が震えることも多々。また、合唱現場はもとより、ドイツ語の授業からも、合唱指導に生きる多くのヒントをいただきました。目で見ても感じたこと、体験したことは全て、今後の音楽活動に生かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。



バッハが結ぶ縁



アイゼナハ市役所にて

宮城県加美町は仙台市から北西へ約50kmのところの位置し、平成15年に中新田町、小野田町、宮崎町の3町が合併し誕生しました。船形山、葉山、鳴瀬川をはじめとする豊かな自然環境や個性あふれる地域文化を活かした「善意と資源とお金が循環するまちづくり」を目指し、農業や地域商業の振興、福祉の向上、企業誘致などを積極的に展開しています。昨年度からは「まちづくりは人づくり」という理念の下、グローバルな視点を持った地域リーダーを育成するため、町の具体的な施策である「美しいまちなみづくり」、「再生可能エネルギーの活用」、「アイゼナハ市・バッハハウスとの交流促進」をテーマに据え、ドイツでの海外研修事業を実施しています。

今回は、「アイゼナハ市・バッハハウスとの交流」についてご紹介させていただきます。

ドイツ・チューリンゲン州に属するアイゼナハは人口約4万2千人、街全体を見渡すことのできる小高い丘に建つヴァルトブルク城はユネスコの世界遺産として知られ、郊外には有名自動車メーカーの工場が立地するなど、文化と産業がバランスよく融合された都市です。また、音楽家ヨハン・セバスチャン・バッハの出生地として知られており、街中心部にはバッハとその作品に関わる全てのものを収集・公開・保存することを目的に設置された、バッハに関する最古の博物館『バッハハウス』があり、日本人だけで年間約6千人が訪れます。

一方、加美町には、バッハのような普遍的で歴史的価値の高い芸術に、多くの人々が触発されることを願い命名された「中新田バッハホール」という、クラシック音楽の中でも室内楽に主眼を置いたコンサートホールがあります。全国で2千ほどあるホールの中で、今でも音響効果ベスト5に入るという専門家の評価をいただいています。開館後30年以上経過してもなお、国内外の音楽家、町内外の聴衆が地方の小規模なホールに集い、共に語り合う音楽を通じてのふれあいは加美町にとどまらず、多くの地域文化創造を目指す人々に注目され、その範として大きな役割を担っています。現在は、開館以来の念願である市民オーケストラ結成に向け準備中で、活動の幅を広げるため新たな展開に取り組んでいます。

動きを止めることなく、成長し続けたい…今後さらなる飛躍のため是非ともバッハハウスと友好関係を築きたいとの思いから、交流についてご提案したところ、快いお返事をいただき、平成24年9月の表敬訪問時に友好協定を締結することができました。

加美町役場 協働のまちづくり推進課 佐藤 礼実

バッハハウスが日本の施設と友好協定を結んだのは今回が初めてのことで、バッハについての情報交換、音楽家同士の交流支援、バッハハウス関連グッズの販売などが主な内容です。また、友好の証として、バッハハウスから中新田バッハホールへ貴重な品々が貸与されました。貸与品の中には、1729年に出版されたピカンダーの詩集「真面目な詩・諧謔的な詩・風刺的な詩」第2巻の初版本(バッハの代表作「マタイ受難曲」の台本が収められている)という大変貴重な書物をはじめ、バッハ直筆の『マタイ受難曲』楽譜のファクシミリ版が含まれています。さらには、バッハハウスのエントランスにあるショーケース内に加美町コーナーを設置していただけるなど、驚きと感動でいっぱいの友好協定締結セレモニーとなりました。

翌年4月には、当時の在仙台ドイツ連邦共和国名誉領事 大和田泰夫様にご臨席いただき、貸与された書物のお披露目を盛大に開催することができました。400名以上の観客が見守る中、ステージ上でパイプオルガンを背に、大和田名誉領事から猪股洋文町長へ書物を貸与していただいたことは非常に光栄なことで、中新田バッハホールを核とした「音楽のまちづくり」へ弾みがついたように感じます。

アイゼナハ市との交流については、相手方の都合もあり、市長への表敬訪問のみに留まっていますが、今後機会を捉えて進めてまいりたいと思っております。

山に囲まれた県北の小さな町ですが、中新田バッハホールではバッハハウスからの貴重な貸与品をご覧いただけますし、隣接する物産販売所では直輸入した同ハウスのグッズもご購入できます。また、役場近くの花楽小路商店街ではドイツさながらの石畳の道を歩きながら買い物を楽しめます。さらに、やくらいリゾート施設群のレストランではドイツ人一流マイスター直伝の「やくらい地ビール」をご賞味いただけるなど、ドイツの雰囲気を感じていただける機会がたくさんあります。暖かい春の訪れとともに、皆さまぜひ一度足をお運びくださいませ。



▲世界遺産ヴァルトブルク城
▼バッハハウス

ドイツでの家族との暮らし



黒崎 敬子



2歳半の娘を連れて私たちがドイツに来て早1年が経ちました。



幼稚園入口

英語もままならず、ドイツ語は仙台日独協会ですべてのドイツ生活はスタートしましたが、人の出会いに恵まれて充実した1年を過ごすことができました。

ドイツでは2歳から公立の幼稚園に入れるということで、幸い近所の幼稚園に空きがあったため、娘はそちらでお世話になり10か月が経ちました。自分としてはもっとドイツ語を身に付けたいと思いつつ、子供がいるとなかなか思うように時間を取れなくてストレスを感じる事もありましたが、この1年を振り返ると子供を通して他の保護者の方や近所の方と出会う事ができ、さらに幼稚園での行事を通して文化の違いや生活習慣の違いを学ぶことができたように思います。

現在住んでいるのはライン川沿いの小さな町で、方言もあるため言葉の面では私には難しい事も多々あるのですが、子育てにはとても良い環境で、ここに住んで良かったなと感じる毎日です。どの公園も起伏があり、自然の森のような雰囲気の中に木や縄を使ったいろいろな遊具があり、場所によっては、リンゴやプラムの木、クルミの木などが生えていて子供たちは木になった果物を食べながら遊んでいます。幼稚園の庭にもリンゴの木が生えていて、うちの娘もしょっちゅうリンゴを持って帰ってきてくれました。



公園の遊び場

また子供たちも人懐っこい子が多く、幼稚園のお友達もみな近所に住んでいるため、公園に行くと必ず誰か知っている子がいて、遠くからでも娘の名前を呼んでくれ、夏の間は毎日楽しく遊びました(とはいえ呼ばれる事はあっても、娘が自分からお友達の名前を呼ぶようになったのはやっと最近の事です)。

がしかし、いろいろ失敗もありました。最初の失敗は2月のカーニバルのお祭りのときで、この日は幼稚園に仮装して行くべし、と他のお母さん方から聞いた私は、どんな事をするのか確認しないまま娘を幼稚園に送って行ったところ、幼稚園では先生も子供たちも仮装だけではなく、顔にもペインティングをして皆で歌えや踊れのお祭りになっていました。そのペインティングがとてもリアルで、一人の先生は魔女の衣装で顔面灰色に塗って迫力満点です!残念ながら娘は

お祭りの楽しさよりも先生の外見にびっくりしてしまい、その日は大泣きで、とてもお祭りを楽しむどころではなく、途中で帰ってきてしまい、その後しばらくは幼稚園に行くのを怖がってしまいました。

また、こちらの教育方針はあくまで自主自立、2歳の子供でも自分でできる事は自分でしなければいけません。そのために先生も必要に応じて厳しく接します。娘を迎えに行ったある冬の日、2歳の子が外靴を脱げなくて困っていました。その靴もとてもしっかりした物で、2歳の子が自分で脱げるような簡単な物ではありませんでしたので、私はつい手伝ってしまいました(一応手伝う前に Soll ich dir helfen? と尋ね、その子がうなずいたので手伝ったのですが・・・)。が、それを担当の先生に見られ、「大人が黙って手伝ってはいつまでたってもその子はできるようになりません。必要以上に手を出すことは良くないです」とたしなめられてしまいました。とはいえできない子には最終的には先生が手伝うのですが、見ていると「手はここを持って、ここを引っ張ると脱げるよ」ときちんと説明しながら手伝っていました。私もそれは大事だとは思っていましたが、言ってもすぐにはできないであろう小さい子にも、できるようになることを期待してやらせようとしている姿勢に驚きを感じました。そのような教育方針の賜物か、どの子もしっかり自分の意見を言い、相手が先生であってももしっかり主張する様子にも驚きました。そんな中で話せない娘は伝えたいことも伝えられず大変だろうと思いますが、話せない子もいるという現実をどの子も受け入れてくれ、一緒にブランコに乗ったり、お人形を取り合ったり、と楽しく過ごしているようです。

そんな幼稚園への送迎時や公園などで他のお母さん方と話をする機会も増えました。彼女たちと話していると、子供に対する考え方や叱り方褒め方等勉強になることばかりです。とはいえ、彼女たちのドイツ語を理解できないことも多く、また自分の言動についても後から「あの時はああ言えば良かった。こう言えば良かった」という反省ばかりの毎日で、たまにつらくなるときもありますが、そんなとき励ましてくれるのもそういうお母さん方や近所の方で、本当にありがたいです。私のドイツ語もいつまでたっても上達しませんがあきらめず、彼女たちとずっと話せるように、砂山に一粒ずつ砂を積んでいこうと頑張っています。



幼稚園では

11月 11日	ワールドカップドイツ開催12都市スライドショー（参加者24名） 仙台日独協会文化センター
21日～26日	ドイツの料理とお菓子教室（参加者40名） 仙台市ガス局ショールーム 講師：沼畑道子氏
12月 1日～6日	「生活リサイクル品アート～日独のこどもたち～」(来場者60名) 東北工業大学一番町ロビー
2日	クリスマスパーティー（参加者36名） レストラン「エノテカ イル チルコロ」
1月 31日	講演会「ドイツの環境保全政策の現状と日本との比較」（参加者110名） せんだいメディアテーク 講師：在日ドイツ大使館一等書記官 ラインハルト・トクラー氏
2月 1日	ワークショップ「環境版画コラグラフでオリジナルはがきをつくらう」（参加者42名） せんだいメディアテーク 講師：五橋中学校教諭 清野智子氏
3月 1日	協会だより「GutenTag（第17号）」の発行
7日	「ドイツ歌曲の夕べ」後援 太白区文化センター 楽楽楽ホール
30日～4月 4日	第1回「みつけた！ドイツ!!」フォトコンテスト入賞作品展 富士フォトサロン仙台 (応募総数429点、入賞作品37点、入賞作品展来場者1,500名)

平成19年(2007年)	
4月 20日	第62回理事会（株）ユアテック会議室
24日～26日	全国日独協会連合会総会出席（ウィルヘルム常任理事・事務局井倉ほか若手会員3名） 群馬県草津町
6月 22日	第23回定期総会 ホテル仙台プラザ
22日	講演会「EUおよびG8の議長国としてのドイツ～国際的責任を担う日本とドイツ～」 講演者：駐日ドイツ連邦共和国大使 ハンス＝ヨアヒム・デア氏 ホテル仙台プラザ
7月 20日	ドイツ映画鑑賞会「アウシュビッツ」（参加者16名） 仙台日独協会文化センター
8月 28日～9月 2日	「仙台オクトーバーフェスト2007」後援 仙台錦町公園（「仙台にゆかりのある3人の優れたドイツ人学者」ならびに「宮城とドイツの青少年交流」に関するパネル、ドイツ資料展示協力）
9月 13日～28日	「宮城におけるドイツ展」協力 ドイツ大使館（フォトコンテスト入賞作品、ドイツ人学者と青少年交流パネル展示、「仙台にゆかりのある3人の優れたドイツ人学者」冊子印刷協力、オープニングセレモニー参加）
18日	「せんだい地球フェスタ2007」参加（ドイツビールとソーセージの販売） 仙台国際センター
11月 3日	ドイツ映画鑑賞会「ベルリン、僕らの革命」（参加者30名） 仙台日独協会文化センター
2月 9日	ドイツ映画鑑賞会「ドレスデン～運命の日～」（参加者26名） 仙台日独協会文化センター
23日	ドイツ映画鑑賞会「ヒトラーの贖札」（参加者32名） チネ・ラヴィータ
28日	講演会「EUと日本～グローバルな責任を担うパートナー 北海道洞爺湖サミットを前に」 ホテルメトロポリタン仙台 講演者：ドイツ連邦共和国外務省欧州担当国務大臣 ギュンター・グローザー氏
28日	懇談会（講演会参加者200名、懇談会160名） ホテルメトロポリタン仙台
3月 1日	協会だより「GutenTag（第18号）」発行

平成20年(2008年)	
4月 15日	全国日独協会連合会総会出席（ウィルヘルム常任理事・事務局井倉） 東京 スクワール麹町
18日～23日	絵画展「わたしのドイツ」（来場者205名） 東北工業大学一番町ロビー
25日	第63回理事会（株）ユアテック会議室
5月 30日	第24回定期総会 エルソーラ仙台 懇親会（参加者34名） 仙台市内レストラン
6月 6日～11日	「ドイツ・ユネスコ世界遺産写真展」（来場者300名） 東北工業大学一番町ロビー
14日	ドイツ映画鑑賞会「MONZEN」（参加者48名） 仙台日独協会文化センター
7月 12日	ドイツ映画鑑賞会「素粒子（Elementarteilchen）」（参加者27名） 仙台日独協会文化センター
8月 22日～31日	「仙台オクトーバーフェスト2008」後援（参加者23,500名） 仙台市錦町公園（ドイツ関係資料展示協力）
下旬	第2回「みつけた！ドイツ!!」フォトコンテスト作品募集開始
9月 21日	「せんだい地球フェスタ2008」参加（ドイツビールとソーセージの販売） 仙台国際センター
11月 1日	ドイツ映画鑑賞会「ブリキの太鼓（die Brechtrommel）」（参加者37名） 仙台日独協会文化センター
12月 17日	「クリスマス音楽会・懇親会」（参加者64名） 仙台市内レストラン
1月 10日～3月 10日	「ライオネル・ファイニンガー展 光の絵画」後援 宮城県美術館
3月 1日	協会だより「GutenTag（第19号）」発行
31日～4月 11日	「みつけた！ドイツ!!展」（来場者10,235名） 東北電力グリーンプラザ (第2回「みつけた！ドイツ!!」フォトコンテスト入賞作品、ドイツ・ユネスコ世界遺産写真パネル、「わたしのドイツ」絵画作品展示) (第2回「みつけた！ドイツ!!」フォトコンテスト応募総数294点、入賞作品30点)

平成21年(2009年)	
4月 9日	第64回理事会（株）ユアテック会議室
18日	第25回定期総会（出席者50名） 宮城県知事公館
18日	講演会「昨今の世界的な景気後退がドイツに与えた影響～今後の日本との関係も視野に入れて～」（参加者65名） 宮城県知事公館 講演者：在日ドイツ連邦共和国大使館 広報部長 ヨアン・バイサット氏
18日	懇親会（参加者68名） 宮城県知事公館
21日	全国日独協会連合会総会出席（事務局井倉・青木出席） 千葉 幕張メッセ国際会議場
9月 18日～9月 27日	「仙台オクトーバーフェスト2009」後援（参加者54,010名） 仙台錦町公園（ドイツ関係資料展示協力）
19日	「せんだい地球フェスタ2009」参加（ドイツビールとソーセージの販売） 仙台国際センター
11月 23日	講演会「ドイツ 女性政治家の築いた統一への道～ベルリンの壁崩壊20周年によせて～」（参加者64名） 仙台市震災復興記念館 講演者：ドイツ キリスト教民主同盟党員 ヴェラ・レンクスフェルト氏
12月 7日	クリスマスパーティー（参加者60名） ホテル仙台プラザ
18日～23日	「ドイツクリスマスマーケット2009」後援 仙台港国際ビジネスサポートセンター
3月 5日～10日	「ベルリンの壁崩壊20周年記念パネル展～平和革命から再統一へ～」(来場者：246名) 東北工業大学一番町ロビー

平成22年(2010年)	
4月 11日	全国日独協会連合会若手会員のつどい（事務局・青木出席） 東京ドイツ文化センター
12日	全国日独協会連合会総会出席（馬場理事事務局長、事務局・青木出席） 東京ドイツ文化センター
12日	「東北大学国際交流フェア」出展（ドイツ関係資料展示協力） 東北大学
20日	第65回 理事会（株）ユアテック会議室
5月 14日	第26回 定期総会・懇親会 KKRホテル仙台
22日～7月 11日	「ルートヴィヒ美術館所蔵 ピカソと20世紀美術の巨匠たち」後援 宮城県美術館
6月 11日～20日	「仙台ジャーマンフェスト2010」後援 仙台市錦町公園
7月 19日	「せんだい地球フェスタ2009」参加（ドイツビールとソーセージの販売） 仙台国際センター
9月 1日	協会だより「GutenTag（第20号）」発行
7日～12日	第1回 日独交流150周年記念絵画展 オイレンブルク伯東アジア遠征隊「ドイツ人画家による日本風景画展」 宮城県美術館
17日～26日	「仙台オクトーバーフェスト2010」後援 仙台錦町公園
23日	宮城県利府高等学校の12月渡独予定者80名を対象とした出張授業 宮城県利府高等学校 (ザールブリュッケン市、ローテンビュール高等学校との交流のため) 講師：ウィルヘルム菊江常務理事
10月 3日	欧州委員会前副委員長ギュンター・フェアホイゲン氏来仙 仙台市内

8日	高網学院高等学校とドイツ・シュターデ市の高校生14名の交流事業「ウォークラリー」協力 仙台市内
12月 19日	クリスマスパーティー 仙台国際ホテル
1月 7日～12日	ベルリンの壁崩壊20周年・東西ドイツ統一20周年記念写真展「ドイツの瞬間」 東北工業大学一番町ロビー
25日～29日	第2回 日独交流150周年記念絵画展 東北電力グリーンプラザ オイレンブルク伯東アジア遠征隊「ドイツ人画家による日本風景画展」
2月 19日	日独対戦ドイツゲーム大会 仙台日独協会文化センター
27日	日独交流150周年記念音楽会「150年前の音楽」 仙台国際ホテル 仙台フィルハーモニー管弦楽団ヴァイオリニスト 小池まどか 出演

平成23年(2011年)	
4月 1日	協会だより 日独交流150周年記念特集号「GutenTag（第21号）」発行 ※
17日	がんばれ東北！笑顔元気プロジェクト（仙台日独協会会員によるソーセージ支援） 仙台市六郷市民センター
30日	第66回 理事会（書面送付による議決） 第27回 定期総会（書面送付による議決）
5月 10日	独日文化協会アーヘンより気仙沼市NPO『森は海の恋人』へ義援金伝達
21日～28日	アコーディオン奏者ウォルフガング・ヘルツレ氏の慰問ツアー（主催：ドイツ大使館、協力：仙台日独協会） 名取・女川・石巻・多賀城・七ヶ浜・東松島・郡山
21日	フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使来仙 避難所慰問 多賀城市総合体育館
6月 5日	気仙沼市NPO『森は海の恋人』植樹祭支援
18日～19日	ドイツ大使館派遣リトバスキー監督 被災小学校支援サッカー教室 協力 中野栄小学校・気仙沼小学校
24日～26日	ドイツ大使館派遣ライブツィヒ弦楽四重奏団 被災地支援コンサート 協力 気仙沼産祈小学校・元寺小路教会、巨野町名寺
7月 4日	ドイツ フランクフルトアムメイン・ゲテ高校より宮城県農業高校への義援金伝達 宮城県農業高校
8月 2日	フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使来仙 村井知事表敬訪問 宮城県庁 講演会『3月11日の東日本大震災を経て、日独交流150周年はいかにあるべきか』開催 東北大学
5日～8日	仙台七夕まつり参加 ドイツの子どもたちからの短冊展示 仙台市中心部アーケード
9月 16日～25日	「仙台オクトーバーフェスト2011」後援 仙台錦町公園
23日	「せんだい地球フェスタ2011」出展・参加 仙台国際センター
10月 1日	日独交流150周年記念東日本大震災復興支援チャリティー企画 東北大学川内萩ホール 「心の架け橋コンサート～届けたい、祈りと希望～」後援
14日～19日	第3回 日独交流150周年記念 東北工業大学一番町ロビー オイレンブルク伯東アジア遠征隊「ドイツ人画家による日本風景画展」開催
21日	全国日独協会連合会年次総会 大和田会長・鈴木副会長・ウィルヘルム常務理事出席 横浜国際船員センター「ナビオス横浜」
21日	大和田会長 全国日独協会連合会副会長に就任
22日	全国日独協会連合会若手会員の集い 事務局青木出席 東京ドイツ文化センター
23日	ドイツ大使館主催ドイツフェスティバル ウィルヘルム常務理事・馬場理事出席 有栖川宮記念公園
24日	ドイツ公益社団法人ゲーテ・インスティトゥート レーマン総裁・ヴェルデマン東京所長 若生副知事を訪問 宮城県庁 宮城県内の研究者や伝統工芸職人30人をドイツに招待する旨の目録贈呈
11月 1日～5日	ドイツ ミュンヘン テアトロウ Atama-ii劇団による演劇会開催 仙台市内児童館、小学校等7カ所 (主催：ゲーテ・インスティトゥート 仙台日独協会)
21日～12月 1日	宮城県内の伝統工芸職人14名がドイツに招待され、ドイツの伝統工芸を視察 ベルリン・ドレスデン・ミュンヘン
28日～12月 8日	宮城県内の学生および研究者16名がドイツに招待され、ドイツの再生可能エネルギー施設を視察 フライブルク・ハンブルク・ベルリン・ハノーバー
12月 13日	フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使が来仙し、次の行事を実施した 講演会『苦境に立ち向かうアジアとヨーロッパ』開催・協力（聴衆450名） 東北学院大学 ・ウィルヘルム常務理事 ドイツ政府より一等功労十字章を受章 仙台国際ホテル ・ドイツ政府より宮城県農業高校へ PC60台・電子ピアノ1台 義援金贈呈 〃 ・宮城県サッカー協会へ モニカ・シュタープ ドイツ人女性コーチ派遣に関する覚書伝達 〃
13日	仙台日独協会主催フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使を迎えての「会員の集い」開催 仙台国際ホテル 仙台日独協会より石巻市奇巖子ども大黒舞復興へ義援金贈呈 〃
28日	独日協会連合会（デア前駐日ドイツ大使）より宮城県農業高校へ マイクロバス1台 義援金伝達 宮城県農業高
1月 23日	全国日独協会連合会副会長会議 大和田会長・事務局青木出席 公益財団法人日独協会
2月 13日	仙台日独協会（香川日独協会他）より名取市立関上小学校へ国語辞書40冊を寄贈 名取市立関上中学校
3月 1日	仙台日独協会よりふじ幼稚園・吉田保育所・荒浜保育所へ楽器を寄贈 ふじ幼稚園・吉田保育所・荒浜保育所
6日	仙台日独協会事務局ブログ「つながってるよ！ドイツと仙台」開設 http://sendai-deutschland.cocolog-nifty.com/blog/

平成24年(2012年)	
4月 1日～9月 30日	モニカ・シュタープ ドイツ人女性コーチによるサッカー教室 協力 岩手・宮城・福島県内 (主催：宮城県サッカー協会、共催：ドイツ大使館・仙台日独協会、協賛：エポニック・デグサ・ジャパン)
14日	全国日独協会連合会「若手会員の集い」事務局青木出席 東京ドイツ文化センター
17日	平成24年度全国日独協会連合会年次総会 大和田会長・馬場理事事務局長出席 東京ドイツ文化センター
18日	第67回 理事会（株）ユアテック
30日	キルヒェン・ムジーク・アカデミー第20回記念チャリティー・コンサート「メンデルスゾーン オラトリオ パウロ Op.36」 後援 仙台市青年文化センター
5月 3日～8日	ライブツィヒ弦楽四重奏団による被災地慰問コンサート開催（共催：ドイツ大使館・仙台日独協会、協賛：エアバス社・ルフトハンザドイツ航空） カトリック石巻教会、花巻交流会館、イーハート館、大館中央公民館、宮古市山口公民館、鳴子小学校、石巻市立桃生中学校、石巻金蔵寺
14日	宮城県農業高校にて震災支援品 贈呈式開催 ベルリン日独センターがPC60台・電子ピアノ、独日協会連合会がバス1台を贈呈 宮城県農業高校
30日	第28回 定期総会 仙台ガーデンパレス
6月 9日	「ライブツィヒ弦楽四重奏団コンサート～復興の祈りをこめて～」開催 元寺小路教会
7月 29日	「せんだい地球フェスタ2012」出展 仙台国際センター
30日	全国日独協会連合会副会長会議 大和田会長出席（公財）日独協会
8月 28日～9月 6日	ドイツ ミュンヘン テアトロウ Atama-ii劇団による演劇会開催 石巻市万石浦幼稚園、万石浦児童クラブ他10カ所
9月 1日	協会だより「GutenTag（第22号）」発行
14日～23日	仙台オクトーバーフェスト2012後援 仙台錦町公園
22日	モニカ・シュタープ ドイツ人女性コーチ参加 石巻・復興支援サッカー試合 石巻市コバルト・レーニングパーク（仙台、石巻、気仙沼、名取市、利府の混合チームVS東京横浜独逸学園）
10月 15日	日本フライブルグ・アルムニ会第15回学術集会 大和田会長挨拶 東北大学さくらホール 作品報告展「もの作り・日独交流」開催 東北学院サテライトステーション ゲーテ・インスティトゥート東京所長 ライムント・ヴェルデマン氏 オープニングセレモニー出席
11月 8日～12日	平成24年度 クリスマスパーティー開催 仙台ガーデンパレス 仙台日独協会設立30周年記念事業 ドイツ語研修者募集開始 新上長部公民館（通称：ベルリンハウス）竣工式出席 陸前高田市 大和田会長、鈴木副会長、ウィルヘルム常務理事
12月 1日	全国日独協会連合会副会長会議 大和田会長出席 日本スペイン協会会議室
9日	仙台日独協会設立30周年記念事業 ドイツ語研修選考結果通知
1月 26日	仙台日独協会設立30周年記念事業 ドイツ語研修選考結果通知
3月 18日	仙台日独協会設立30周年記念事業 ドイツ語研修選考結果通知



2012七夕



atamaii 公演2012



2012女子サッカーコーチ



12/9 ベルリンハウス

平成9年(1997年)	
2月 28日	氏家榮一名誉会長 ドイツ連邦共和国より 「勲一等功労十字勲章」叙勲
3月 31日	「仙台日独協会会報」第6号発行
5月 3日	「全国こけし祭り」作品出展（ドイツ人3人による絵付けこけし）
18日～ 7月19日	福島県川俣町人材育成青少年海外派遣研修事業に協力（平成14年まで5回実施）
6月 9日～11日	ふれあい国際交流事業支援：東京・横浜ドイツ学園の児童が小野田町へ
7月 5日	講演会：「ゲーテのファウスト」東北大学名誉教授 小栗 浩氏
17日	栗駒町とバート・ハルツブルク小学校との絵画交流に協力
12月10日	演奏会：「ピアノコンサート」ベアトリス・ラウフス氏 駐日ルクセンブルク大公国大使ご夫人来仙による懇談会および歓迎会

平成10年(1998年)	
1月 10日	新年会ならびにニューイヤークンサート：ウィーン・ビーダーマイヤー・ソリストエン 在日エストニア共和国臨時大使ご夫妻来仙 講演会：「日本人の目から見たエストニア」 駐日エストニア共和国臨時大使 Dr.ヘイキ・ヴァラステ氏
4月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第9号発行
12日	ハンブルク「桜の女王親善大使」と日本「桜の女王」を囲む会
18日	講演会：「ゲーテのファウスト」東北大学名誉教授 小栗 浩氏
22日～24日	DAADより日本語学習と企業内研修生17名受入れ
5月16日	講演会：「ゲーテのファウスト」東北大学名誉教授 小栗 浩氏
6月20日	講演会：「ゲーテのファウスト」東北大学名誉教授 小栗 浩氏
6月27日	「ハイルザーム栗駒」オープン式典参加のため 駐日ドイツ連邦共和国公使フォルクマー・シュトッカー氏宮城県来訪、県内視察
9月 3日～11日	花泉町からドイツ・ナウムブルク市、シェーンブルク町への研修旅行実施に協力
10月21日	在日ドイツ連邦共和国大使館との交流懇談（広報部長 クラウス・アウエル氏ほか）
30日	講演会：「新政権・ドイツの文化政策」 在日ドイツ連邦共和国大使館文化部長 カール・ケーラー氏
12月22日	クリスマスパーティー

平成11年(1999年)	
1月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第10号発行
21日	宮城県警察通訳ネットワーク設立に伴い参加加入
4月13日	講演会：「栗駒町国際理解教育」キルスティン・バーゲルス氏
5月 4日	栗駒町とバート・ハルツブルク小学校との絵画交流に協力
6月18日	ゲーテ生誕250年記念コンサート：「ゲーテを歌う」菅 英三子氏（ソプラノ）
7月 3日	ゲーテ生誕250年記念講演会：「愛の詩人ゲーテ」フェリス女学院院长 小塩 節氏
25日～ 8月 3日	栗駒町の中学生によるドイツ・シュターデ市への研修旅行実施に協力
10月16日	宮城野高等学校実施の土曜ゼミに協力（3回開催）
12月22日	クリスマスパーティー

平成12年(2000年)	
1月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第11号発行
20日	講演会：「ドイツのボランティア活動事情」 在日ドイツ連邦共和国大使館文化部長 カール・ケーラー氏
22日	宮城産業振興機構のドイツ・シュテルネンフェルトズ町視察旅行実施に協力
4月 2日	ハンブルク「桜の女王」来仙歓迎会
5月24日	在日ドイツ連邦共和国大使館広報部長 クラウス・アウエル氏との意見交換会
6月 2日	駐日ドイツ連邦共和国大使 Dr.ウーヴェ・ケストナー氏来仙歓迎会
8日～11日	ふれあい国際交流事業支援：東京・横浜ドイツ学園児童26名（教師3名）と小野田町児童との交流会
7月25日～ 8月 3日	栗駒町の中学生17名によるドイツ・シュターデ市への研修旅行実施に協力
8月16日～25日	栗駒町の中学生によるドイツ・シュターデ市への研修旅行実施に協力
9月 9日	講演会：「ドイツ政府の文化政策」 在日ドイツ連邦共和国大使館文化部長 カール・ケーラー氏
11月 8日	ふれあい国際交流事業支援：小野田町児童40名（教師6名）が東京・横浜ドイツ学園を訪問し交流会を実施

平成13年(2001年)	
2月18日	講演会：「中世シトー修道院の建築様式とその生活」 在日ドイツ連邦共和国大使館文化部長 カール・ケーラー氏
4月21日	ドイツ映画への誘い「ニコライ教会」
5月27日	ドイツ映画への誘い「スキャンダル」
6月12日	(株)ユアテック社長 大和田泰夫氏が駐仙台ドイツ連邦共和国名誉領事に就任 認証式ならびに名誉領事任命レセプション （於：駐日ドイツ連邦共和国大使館、Dr.ウーヴェ・ケストナー大使主催）
7月 6日	木下藤次郎会長が名誉会長に就任、会長に大和田泰夫氏が就任 仙台日独協会常任理事 ウィルヘルム菊江氏ドイツ連邦共和国より「功労十字勲章小綬章」叙勲
16日	在日ドイツ連邦共和国大使館広報部長 クラウス・ヘルツォーク氏来仙 仙台商工会議所会頭 村松 巖氏と懇談
18日	仙台日独協会理事 小栗 浩氏 ドイツ連邦共和国より「功労勲一等大功績十字章」叙勲
9月 7日～18日	仙台商工会議所会頭 村松 巖氏のドイツ政府による招聘旅行に協力
28日～10月11日	河北新報社製作総務兼編集局次長 半田英博氏のドイツ政府による招聘旅行に協力
10月13日	ドイツ映画のタベ「都市の夏」
11月 9日	ドイツワインパーティー
10日	ドイツ映画のタベ「エフィー・プリースト」
12月15日	ドイツ映画のタベ「闇と沈黙の国」

平成14年(2002年)	
1月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第12号発行
3月 1日	在日ドイツ連邦共和国大使館文化部長 Dr.ゲーロルト・アメルンク氏来仙 仙台日独協会文化センター視察ならびに懇親会
4月26日～ 5月 5日	駐仙台ドイツ連邦共和国名誉領事 大和田泰夫氏（当会会長）のドイツ政府による招聘旅行に協力
6月 1日	講演会：「どうなる？21世紀のフランスとドイツ」 駐日ドイツ連邦共和国公使 フォルクマー・シュトッカー氏 駐日フランス大使館公使 イヴ・ドゥロナー氏

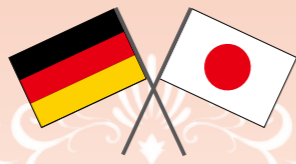
15日	講演会：「マタイ受難曲」今井邦男氏
8月28日	ドイツ洪水災害被害者義援金募集活動
9月10日	仙台日独協会ホームページ開設（www.jdg-sendai.jp）
10月 6日	陸上自衛隊創立記念イベント出展（ドイツのPR）
11月12日	講演会：「パワーウォーキング」 ルートヴィッヒ・ガウダー氏
12月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第13号発行
10日	クリスマスパーティー
14日	演奏会：「ピアノコンサート」大田麻佐子氏

平成15年(2003年)	
3月18日	講演会：「エリゼ条約の40周年と＜古いヨーロッパ＞」早稲田大学法学部教授 樋口陽一氏
5月23日	エリゼ条約調印40周年記念講演会：「車の両輪 ドイツとフランス」 在日ドイツ連邦共和国大使館政務担当参事官 ロルフ・マファエル氏 在日フランス大使館政務参事官 ホール・グラハム氏
6月11日～13日	ミュンヘン市民大学研修生受入事業：ドイツ人14名（引率日本人2名）との交流会とホームステイ
11日	ワークショップ：「仙台の歴史と日本文化」参加者46名
12日	ワークショップ：「食文化の交流 ドイツと日本」参加者38名
21日	講演会：「命のビザ ユダヤ人を救った日本人たち（前編）」 駐日ルクセンブルク大公国名誉副領事 吉野忠彦氏
7月 1日	仙台日独協会文化センターホームページ開設（www.doitsugo.jp）
4日	講演会：「文学の交流 ドイツとフランス ～ゲーテ、ロマン・ローラン、ヘッセ～」 東北大学名誉教授 小栗 浩氏
26日	講演会：「命のビザ ユダヤ人を救った日本人たち（後編）」 駐日ルクセンブルク大公国名誉副領事 吉野忠彦氏
8月28日～ 9月 7日	ライン河とモーゼル河の要塞をめぐる旅（8名参加）
9月13日～11月 9日	「ヴィルヘルム・レームブルック展」後援（宮城県美術館）
10月 5日～ 8日	ドイツ・シュターデ市の中学生受入事業：中学生14名（教師2名）との交流会とホームステイ
11月14日	仙台日独協会設立20周年記念式典 特別記念講演会：「ドイツおよび欧州の経済政策」 駐日ドイツ連邦共和国大使 ヘンリク・シュミーゲロー氏 記念パーティー

平成16年(2004年)	
5月22日	ビデオ鑑賞会「メナー」 仙台日独協会文化センター
25日	第57回理事会 （株）ユアテック
7月 2日	宮城EU協会記念講演会「EU拡大と日本・EUの関係について」出席 ホテル仙台プラザ
9日	第20回定期総会 エルソーラ仙台
8月 3日～12日	「ドイツの教育事情視察の旅」（参加者14名）ベルリン・ハンブルク等 スペシャルオリンピックストーチラン参加（参加者16名） 仙台市内
27日	第58回理事会 （株）ユアテック
10月15日	講演会ならびに宮田光雄先生功労勲章大功労十字章受章祝賀会 仙台国際ホテル 講演会「この秋ドイツでは…選挙、年金改革、デモ、赤字対策、この先の見通しについて」 講演者：在日ドイツ大使館文化部長 ゲルハルト・ティーデマン氏（出席者59名）
11月30日	仙台日独協会設立15周年記念式典大和田会長出席 仙台ホテル
12月22日	クリスマスパーティー（参加者70名） 仙台国際ホテル
3月 1日	協会だより「GutenTag（第15号）」の発行
22日	全国日独協会連合会総会（宇都宮） ホテル東日本宇都宮 熊谷事務局長

平成17年(2005年)	
4月13日	第59回理事会 （株）ユアテック会議室
16日	ドイツ映画鑑賞会「名もなきアフリカの地で」（参加者52名） 仙台日独協会文化センター
5月25日	第21回定期総会・懇親会（参加者25名） せんだいメディアテーク
7月 1日～ 6日	「建築家 ブルーノ・タウトの工芸・デザイン展」共催（来場者600名） 東北工業大学一番町ロビー
2日	講演会「ブルーノ・タウトの仙台そして国立工芸指導所」（来場者65名） 東北工業大学一番町ロビー 講師：庄子晃子会員（東北工業大学教授）
23日	ドイツ映画鑑賞会「飛ぶ教室」（参加者28名） 仙台日独協会文化センター
9月 2日～ 7日	「ドイツ観光ポスター展」主催（来場者200名） 東北工業大学一番町ロビー
9日～17日	「ドイツ観光ポスター展」共催（来場者100名） 鳴子町中央公民館
18日	仙台国際センターまつり出店 仙台国際センター （ドイツビールとソーセージの販売）
10月 1日	ドイツ映画鑑賞会「グッバイ、レーニン！」（参加者24名） 仙台日独協会文化センター
11日	第60回理事会 （株）ユアテック会議室
12日～29日 （一部11月13日まで）	「新渡戸稲造の武士道展」特別協力（来場者38,900名） 東北電力グリーンプラザ
16日	講演会「新渡戸稲造に学ぶもの」（来場者69名） 東北電力グリーンプラザコミュニティルーム 講師：小栗 浩理事
11月11日	ドイツの伝統的な料理とお菓子教室④（参加者20名） 仙台市ガス局ショールーム
12月10日	「大田麻佐子ピアノ・リサイタル」主催（参加者226名） 常盤木学園シュトラウスホール
2月19日	岩出山町交流協会国際理解講座「ドイツの冬の料理教室」後援 岩出山町文化会館
3月19日～25日	「シュタイナー教育展」後援 仙台市青年文化センター

平成18年(2006年)	
4月12日	全国日独協会連合会総会出席（鈴木副会長・事務局井倉） 東京・スクワール麹町
20日	第61回理事会 （株）ユアテック
5月26日	第22回定期総会 ホテル仙台プラザ
26日	講演会「婚姻・親子という関係は大したものではない」（参加者40名） ホテル仙台プラザ 講師：鈴木祿彌氏（東北大学名誉教授）
7月15日	ドイツ映画鑑賞会「ヤンパバ」（参加者32名） 仙台日独協会文化センター
8月30日～ 9月 3日	「仙台オクトーバーフェスト2006」後援 仙台市錦町公園
9月18日	仙台国際センターまつり出店 仙台国際センター （ドイツビールとソーセージの販売）
30日	ドイツ映画鑑賞会「ベルリン・フィルと子どもたち」（参加者36名） 仙台日独協会文化センター
10月12日～18日	シュターデ市と宮城県青少年交流事業
17日～12月10日	「パウル・クレー 創造の物語」後援 宮城県美術館



仙台日独協会30年のあゆみ

昭和58年(1983年)

5月 12日	設立準備委員会発足
26日	設立総会・記念式典・記念祝賀パーティー(初代会長 桐七十七銀行会長 氏家栄一氏) 駐日ドイツ連邦共和国大使 Dr.クラウス・プレヒ氏来仙
8月 14日	デュッセルドルフ・ジュニアサッカーチーム来仙、協会から記念の盾を贈呈
25日	「協会だより」創刊号発行
9月 14日	演奏会:河野保人氏(ツイッター)
11月 26日	講演会:「戦後38年間の日独関係」 駐日ドイツ連邦共和国大使館広報部長 Dr.ヨハネス・プラインジガー氏
12月 28日	「仙台日独協会会報」創刊号発行

仙台日独協会創立記念式典並びに記念パーティー



創立記念式典

昭和59年(1984年)

2月 15日	講演会およびドイツ観光映画上映会
3月 15日～25日	「良い玩具」展示会主催(宮城県美術館)
4月 22日	講演会:「ヨーロッパ・ドイツ語圏における聴覚障害児の統合教育」 ハイデルベルク大学教授 アルミン・レーヴェ氏
5月 11日	「ドイツ表現派展」内覧会・レセプション(宮城県美術館)
6月 21日	演奏会:ミクロロゴス(中世ルネッサンス音楽アンサンブル)
7月 10日	「協会だより」第2号発行
10月 13日	講演会:「ハイデルベルク」ハイデルベルク市長 Dr.ラインホルト・ツンデル氏 ハイデルベルク市長 Dr.ラインホルト・ツンデル氏を囲む昼食会
11月 8日	講演会:「1984年秋における西ドイツの経済環境」 ドイツ銀行在日総支配人兼東京支店長 Dr.ハンス・J・ベック氏
11月 23日～12月 23日	「建築家ブルーノ・タウトのすべて」特集展示協力(宮城県美術館)
12月 25日	ドイツのクリスマス音楽を楽しむ夕べ(宮城フィル)



「良い玩具」展示会

昭和60年(1985年)

5月 15日	「仙台日独協会会報」第2号発行
16日	ドイツワインとパンの夕べ
10月 16日	講演会:「ドイツ連邦共和国と日本との経済関係」 駐日ドイツ連邦共和国大使 Dr.ヴァルター・ボス氏
11月 1日	講演会:「平和と人権」ハインツ・エドワルト・テート氏
17日	演奏会:コンラート・ユングヘーネル氏(リュート)
12月 14日	ドイツのクリスマス音楽を楽しむ夕べ

昭和61年(1986年)

2月 18日	講演会:「ドイツ連邦共和国における教育と社会」 フランクフルト大学教授 Dr.ルードウィヒ・フォン・フリーデブルク氏
4月 26日	演奏会:ウィルヘルム・オーメン氏(ピアノ)
10月 13日	独唱会:佐藤征一郎氏
22日	講演会:「日本とドイツの関係」 在日ドイツ連邦共和国大使館書記官 Dr.インゴ・カーステン氏
12月 11日	ドイツのクリスマス音楽を楽しむ夕べ (ルネッサンス・コンフォート、宮城学院大学グリークラブ)

昭和62年(1987年)

4月 6日	仙台日独協会文化センター開設(初代所長 Dr.ヴォルフガング・ウィルヘルム氏) 駐日ドイツ連邦共和国大使 Dr.ハンス・ヨアヒム・ハリヤー氏来仙歓迎会
4月 14日～11月 17日	ドイツ・オペラ映画(6回開催)
10月 31日～	ドイツワインセミナー(7回開催)
12月 2日	講演会:「ゲーテは日本人だったか?」 在日ドイツ連邦共和国大使館参事官 Dr.マンフレッド・オーステン氏



仙台日独協会文化センター開設

昭和63年(1988年)

6月 11日～7月 10日	「芸術風 アート・カイト展」協力(宮城県美術館)
9月 22日	「仙台日独協会会報」第3号発行
12月 12日	ドイツのクリスマスを楽しむ夕べ

平成元年(1989年)

1月 16日	講演会:「東西ドイツの関係」Dr.フランツ・エクスレ氏
	講演会:「地方における国際化とは?」 駐日ドイツ連邦共和国大使 Dr.ハンス・ヨアヒム・ハリヤー氏 大使を囲んでのドイツワインとドイツ料理のパーティー
4月 21日	仙台日独協会文化センター「読書コーナー」開設
5月 13日	演奏会:「ミハエル・ベルマンを聴く」オイシュタイン・シュタート教授
13日～12月 6日	ドイツ料理の会(6回開催)

6月 17日	66種類のライン・ヘッセンワインの会
10月 27日～11月 1日	「大ドイツ展」
11月 18日	講演会:「女性と文化」作家 イルマ・ヒルデブランド氏
12月 20日	クリスマスパーティー

平成2年(1990年)

4月 14日	講演会:「マタイ受難曲における音楽象徴」ディートハルト・ヘルマン教授
23日	詩の朗読会:ウラ・ハーン氏
30日	演奏会:「マタイ受難曲」指揮:ディートハルト・ヘルマン教授
6月 5日	チャリティーパーティー
11月 16日	講演会:「ハイデッガーの講演<芸術の由来と思维の使命>の解明」 ヴァルター・ビーメル教授
12月 28日	ドイツのクリスマス音楽を楽しむ夕べ



1990クリスマスパーティー

平成3年(1991年)

6月 1日	「仙台日独協会会報」第4号発行
12日	在日ドイツ連邦共和国大使 ヴォルヘルム・ハース氏来仙歓迎昼食会
8月 7日	ハンブルガーシュトゥラーセとサンモール東一番町との友好商店街提携に協力
12月 5日	講演会:「ドイツ統一後の後片付け」 ザールラント大学教授 ウィルフリート・フィードラー氏
13日	クリスマスパーティー



協会だより「GUTEN TAG」創刊号発行

平成4年(1992年)

1月 31日	講演会:「マーストリヒト後のヨーロッパ経済通商政策」 ドイツ連邦共和国連邦議会議員 ヴォルフガング・ロート氏
10月 1日	協会だより「GUTEN TAG」創刊号発行
31日～12月 6日	「ケーテ・コルヴィッツ展」後援(宮城県美術館)
12月 10日	クリスマスパーティー

平成5年(1993年)

3月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第2号発行
25日	仙台日独協会文化センター所長 Dr.ヴォルフガング・ウィルヘルム氏逝去 所長にウィルヘルム菊江氏就任
10月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第3号発行
6日	仙台日独協会設立10周年記念式典 記念講演会:「ドイツの経済的発展と世界経済に対する日独両国の責任」 Dr.ハインリッヒ・クレフト氏 記念独唱会:姉歯けい子氏(ソプラノ)
11月 13日・14日	セミナー:「ドイツの外国人問題」イラン人詩人 ザイド氏
12月 11日	クリスマスパーティー



10周年式典



10周年パーティー

平成6年(1994年)

4月 16日	講演会:「欧州の現状—そのリスクと将来的希望—」 Dr.ハンス・アルブレヒト・シュヴァルツリーパーマン氏
5月 1日	「仙台日独協会会報」第5号発行(仙台日独協会設立10周年記念号ならびにDr.ヴォルフガング・ウィルヘルム氏追悼号)
6月 23日	対欧州国際交流協会 合同交換会
7月 25日～8月 6日	ドイツ文化にふれる旅(ドイツ南西部 9名参加)
12月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第4号発行
5日	クリスマスパーティー

平成7年(1995年)

2月 4日	国際交流研修会「ドイツフォーラム」
21日～23日	ふれあい国際交流事業支援:東京・横浜ドイツ学園の児童が小野田町へ
3月 31日	協会だより「GUTEN TAG」第5号発行
5月 12日	講演会:「現在のドイツの経済事情と日独関係」 駐日ドイツ連邦共和国大使 Dr.ハインリッヒ・ディートリッヒ・ディークマン氏
6月 19日～21日	柴田町からドイツ・シュテルネンフェルツ町への研修旅行実施に協力
7月 23日	演奏会:「ファゴットとチェロの夕べ」フリードリヒ・エーデルマン氏(ファゴット) レベッカ・ラスト氏(チェロ)、大田麻佐子(ピアノ)
29日～8月 7日	ドイツへ研修旅行(ハンブルク、リュネブルク、バルト海沿岸)
10月 23日	ふれあい国際交流事業支援:東京・横浜ドイツ学園の児童が歌津町へ
12月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第6号発行

平成8年(1996年)

2月 7日・22日	ドイツ映画の夕べ「ヤスミン」「愛のシンフォニー」
2月 16日	講演会:「ドイツは今」 在日ドイツ連邦共和国大使館参事官 フォルカー・クライン氏
3月 31日	演奏会:「フルートとピアノによるコンサート」 ラルス・アスピヨルンゼン氏(フルート)、武田牧子氏(ピアノ)
4月 7日	ドイツ・日本「桜の女王」を囲む会
5月 2日	ドイツのベッチ郵政大臣来仙歓迎会
23日	講演会:「ドイツの郵政行政」ドイツ連邦共和国連邦議会議員 アルネ・ピヨルンゼン氏
30日	氏家栄一会長が名誉会長に就任、会長に(株)ユアテック会長 木下藤次郎氏就任
6月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第7号発行
1日	大衡小学校とシェンブルク小学校との絵画交流に協力
29日	講演会:「ゲーテをめぐる女性達」東北大学名誉教授 小栗 浩氏
9月 9日	演奏会:「ピアノとチェロのデュオ」 大田麻佐子氏(ピアノ)、ファイト・ヴェンクヴォルフ氏(チェロ)
10月 12日～22日	栗駒町によるパート・ハルツブルク市への研修旅行実施に協力
11月 2日	講演会および展覧会鑑賞:「カンデンスキーとミュンター」 宮城県美術館学芸部長 西村勇晴氏
19日～21日	ふれあい国際交流事業支援:小野田町と東京・横浜ドイツ学園の児童の交流(以後継続)
12月 1日	協会だより「GUTEN TAG」第8号発行
6日	クリスマスパーティー

文明開化の明治期に後続して活躍したドイツ人 「ルードヴィヒ・リース」についての小論

仙台日独協会副会長 鈴木 ハツヨ

2013年が仙台日独協会設立30周年でもあり、当協会の皆さまに、日独交流についての情報として書かせていただいたのが、表題の小論である。さらに、リースについては、林健太郎元東大総長が、日本の近代歴史学の恩人ルードヴィヒ・リースは、哲学のケール、文学ではチェンバレン、医学のベルツ等に劣らず、日本に偉大な貢献をしたにも拘わらず、「これらの人々はいずれも有名で、その専門以外にも名を知られているが、リースは歴史家の間以外には知る人が少なく、残念なことである（『文芸春秋』51巻12号83頁以下1973年）」と記しておられたことも、本小論執筆の契機となった。しかし、紙数の関係からGuten Tag 23号への取載は困難なため、後記「季刊創文」に出させていただくことにした。そこで、以下に、その内容を簡単に紹介させていただくことにする。

ルードヴィヒ・リース Ludwig Reiss (1861~1928)は、西欧に追いつき追い越すための西欧文化の輸入に急な明治期の文明開化の時代に、明治政府の招きで来日した、いわゆる「お雇い外国人」として活躍したユダヤ系ドイツ人である。リースは明治20年(1887年)から明治35年(1902年)まで、現在の東京大学の歴史学の教授として来日し、わが国の近代歴史学研究の礎を築き、辻善之助、幸田成友(露伴の弟はじめ多くの弟子を育てた)、また、慶応義塾大学の史学科創設にも尽力している。リースは、医学のベルツ他、多くのお雇い外国人の学者と同じく、日本人女性を妻に迎え、一男四女を設け、家庭ではよき夫そして慈しみ深い父として暖かい家庭を築いた。しかし、明治35年(1902年)、「お雇い外国人」による日本の近代化への道筋がなくなり、リースも解任

となつて、帰国した。リースは帰国後は、大学に於て学識にふさわしい地位に恵まれなかつた上に、糖尿病を患い、第一次世界大戦敗戦後のドイツで経済的にも困窮した。しかし、この窮状は、家計のきりもりに長じた妻と恩師思いの弟子たちの送金にも支えられ、後々くことができた。リースは帰国後第一次世界大戦時の中断はあったが、三女政子宛に、彼女の英語が上達

150年前(維新頃)の文明開化

仙台日独協会常務理事 木村 邦雄

「八重の桜」(NHK大河ドラマ)をご覧になったでしょうか。皆さん方には色んな印象の連ドラであつたに違いありません。私には、「会津戦争」や、「白虎隊」の認識が激変させられたドラマとなりました。

維新(1868年)当時の欧米と日本の文明落差が大きい事も描かれていました。特に、薩摩と長州は、フランス・イギリス・オランダ等の軍勢力・産業力にシヨックを受けました。そして、それまでの「尊皇攘夷」思想の足りなさや実感を失われ、両藩の開国と先進文明の受容を使命とする価値観は大胆に形成されていくのです。1863年~1864年にかけて、薩摩はイギリス軍と戦闘し、長州はフランスやオランダやアメリカ・イギリスと下関戦争を展開しました。両藩とも賠償金44万ドルや300万ドルを請求され、更に圧倒的軍勢力の差を藩主・武士商人・農民・住民らが学び、恐怖感も抱だされたのです。両藩は、鎖国制度の厳しい中、密使を選び欧州に派遣させます。こうした中、ドイツからオイレンブルクが日本との通商貿易交渉に来日しました。

するにつれて、知的に優れた人生の導き手の父親として愛情溢れる手紙を書き送っている。政子も成長に伴って、苦境の父を慰め励ます返信を認めて、父を支えていたことが窺え、心うたれるものがある。この父娘の交流は、「金井圓・吉見周子編著「わが父はお雇い外国人」合同出版1978年」に詳しく紹介されており、この著書を手掛かりとして、他の語文獻にも依拠して「季刊創文2014夏ZON」以下(株)創文社刊102-10083東京都千代田区麹町2-16-17)に、創文社の「好意により記述し、収録していただくことになった。

所収の拙文をご二読下されれば有難い次第である。

た。フランス、イギリス、オランダ等と比べ、遅れた交渉となりますが、日本の近代国家誕生の基本はドイツの貢献するところが、偉大でした。憲法・刑事・民事・経済・軍事・医学・芸術・教育他の伝授は、広域かつ長年に渡りました。しかし、欧米の諸文明は高次元から低次元への流入ばかりではありませんでした。日本人の「識字率」(「文字熟知」が背景にあります。福沢諭吉の「学問のすずめ」や「西洋事情」が、日本国内で広く読まれ、世界中では珍しいと言われた大ベストセラーになったのです。尚、「弓と禪」(オイゲン・ヘリゲル元東北大学教授著)東北大学川内図書館所蔵)をご二読頂けるなら、元在仙の元東北大学教授が日本の文明を如何に高く評価していたかにもうたれます。この本は、1937年日本語版も、1951年には、ミュンヘンでも出版されて、20版に及びました。その後、オランダ語英語フランス語イタリア語版が出版されています。

仙台日独協会文化センター NEWS

2014年5月18日 ライブツィヒ弦楽四重奏団 コンサート

今年も5月18日(日)14時より宮城野区文化センターのパトナホールにて、ライブツィヒ弦楽四重奏団コンサートを開催する事になりました。この四重奏団は2011年3月の震災以降毎年、福島県から宮城県、そして岩手県まで30カ所の被災地を訪問し、演奏を通して、人々の心を慰めてきました。海辺の小さな学校の体育館、津波をまぬがれた崖の上の教会や仮設住宅に隣接するお寺など、どのコンサートでも真摯な態度で演奏を大切に、聴衆に感動を与えました。

この度は株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北の強力なご支援により、演奏会開催の運びとなりました。心より感謝申し上げます。



在仙台ドイツ連邦共和国 新名誉領事就任について

平成25年11月22日、株式会社ユアテック取締役社長 大山正征氏は、仙台市内のホテルにおいて、ヘルツベルク駐日ドイツ連邦共和国臨時代理大使から、在仙台ドイツ連邦共和国名誉領事に任命され、就任致しました。

なお、平成13年6月12日から在仙台ドイツ連邦共和国名誉領事を務めていた大和田泰夫氏は、同日付けで退任致しました。



仙台日独協会文化センター

<http://www.doitsugo.jp>

仙台市青葉区大町2-3-10 目黒ビル3F

TEL/FAX 022-262-7430 (事務時間:月~金15時~19時)